

小中学生のための「教科書に出てくる人名辞典」 A5判/300ページ
 国語・社会・理科・数学・音楽・美術

PTA価格 1,600円 (定価1,760円)

<概 要>

文部科学省では、最近の教育分野が抱える諸問題に関して「ゆとり教育」の実質的な見直しを含めていろいろな検討がなされているようですが、子供の学習に関する国際比較によりますと、我が国の子供たちの特徴は「学習能力や学習に対する興味の二極化の進行が著しい」となっています。

このたびの「教科書に出てくる人名辞典」は、教科書に採り上げられたほう大な数の人物について、授業のなかでただ聞き流すだけでなく、実際にどんな人物であったかを知ること興味を呼び起こし、ひいてはそれが学習に対する興味につながるようになってほしい、という思いから教科別に人物を取り上げ編集・要約した情報を提供するものです。

<特 徴>

1. 教科書に掲載されている人物およそ600人について、情報を整理して人物像を紹介しています。(うち、およそ60人は写真入り<国立国会図書館提供>で紹介しています)
2. 扱いやすく、持ち運びやすいA5判で、教科書と同じ活字(教科書体)で表記。見やすい横書きです。
3. 主要1,500語にキーワード索引をつけ、人物に関係する法則名・事件名・著書名・作品名・曲名・国名などから調べることを可能にし、学習に便利な編集にしています。
4. 科目別(国語・社会・理科・数学・音楽・美術)に構成しました。
5. 本文すべてに読み仮名を付け、小学1年生から学習できるよう編集しました。

キーワード索引 (実物見本)

・ 浜辺の歌	234	・ 百日咳菌	205
・ 歯磨き洗面の習慣	84	・ 百花斉放百家争鳴	129
・ ハリウッド映画の俳優	80	・ ピューリタン革命	45
・ パリ音楽院	233,235,238	・ ピュリッツァー賞	46,139,165,177
・ 馬力(ワット)	226	・ 漂白の詩人	194
・ パリ万博	251	・ 表現主義	151,259
・ パルテノン神殿	112	・ 平泉に都市建設	108
・ バルビゾン派	259	・ 平戸	26
・ ハレー彗星	213	・ 貧窮問答歌	190
・ バレエ音楽	231		
・ バロック時代	262	・ ファウスト	227
・ ハンガリー、ボヘミア女王	122	・ ファシスト党党首	126
・ ハンガリーの作曲家	235,241	・ ファシズムの創始者	126
・ 判官鼻頂	125	・ ファラデーの法則	215
・ 版籍奉還・廃藩置県	31		

(お問い合わせ)

教育図書学参部 TEL/FAX (無料) 0120-963-180

教育図書学参部の出版物は、1978年から40年あまりにわたり、全国の小中学校を通じて案内されています。

エンゲルス

Friedrich Engels

1820 - 1895

キーワード

- ・ 社会主義経済学者
- ・ マルクス主義
- ・ 共産党宣言
- ・ 第1インターナショナル

フリードリヒ・エンゲルスは、ドイツの社会主義経済学者。1820年に豊かな紡績工場主の家に生まれました。若いころにヘーゲルの哲学やフランスの社会主義思想を学び、貧しい労働者の生活をみて社会主義者となりました。盟友マルクスと共に、労働者が中心の社会に変えるための哲学や歴史、経済について共同研究を行い、マルクス主義、科学的共産主義を創始しました。1848年「共産党宣言」を出して革命運動を遂行しましたが、敗北してイギリスに亡命しました。その後、第1インターナショナルという社会主義者の組織を作って労働者の指導やマルクス主義を広めました。マルクスの死後、彼の「資本論」の完成に寄与し、その翌年に病気のため死亡。著作としては「家族・私有財産・国家の起源」や「反デューリング論」などがあります。

大久保利通

おおくぼとしみち

1830 - 1878

キーワード

- ・ 薩長同盟の中心的人物
- ・ 版籍奉還・廃藩置県
- ・ 西南戦争



(国立国会図書館提供)

幕末から明治初期の政治家。薩摩藩士の子として生まれました。初めは、朝廷と幕府が協力して政治を行う公武合体策実現のため奔走しましたが、後に西郷隆盛らと共に討幕に転じ、薩長同盟の中心的人物として活躍して王政復古を実現させました。明治新政府では、参議、大蔵卿になり、藩主が版(土地)と籍(人民)を朝廷に返す版籍奉還や廃藩置県を断行して中央集権体制の基礎を築きました。岩倉具視に従って欧米視察に参加し、帰国後、西郷らの征韓論に反対して、国内の政治を先に整えることを主張しました。それ以降、内務卿として、不平等土族が起こした佐賀の乱や西南戦争を平定して独裁的な権力を握り、立憲制への移行、地租改正による財政の安定、ヨーロッパの技術を取り入れた富岡製糸場を作るなど、殖産興業による近代産業の育成を図りました。しかし、西洋に倣うことへの反対を受けるようになり、最後は、西郷隆盛を自殺に追い込んだことへの恨みをもつ土族の島田一郎に東京の紀尾で暗殺されました。